

平成 27 年度 第 4 回園芸研究所主要課題現地検討会（バラ）の開催

1月15日（金）に園芸研究所において、バラの主要課題現地検討会を開催しました。当日はバラ生産者、種苗会社、全農いばらき及び県関係機関の34名の出席があり、県花であるバラの切り花栽培における高品質・安定生産技術として、昨年度から取り組んでいる炭酸ガス施用及び補光を利用した栽培技術等について、意見交換を行いました。出席者から多くの意見が寄せられ、今後のバラに関わる試験研究推進と普及における課題の解決に向けた有意義な検討会になりました。

1 試験研究の取り組み・進捗状況の紹介

- ・バラの炭酸ガス施用と補光技術について、研究進捗状況や期待される成果を紹介しました。

LPガス燃焼型炭酸ガス発生装置を使用して、日中のハウス内炭酸ガス濃度を高め、光合成効率を高めることによって、バラ切り花の収穫時期が早まるとともに収穫本数の増加も確認されました。また、光合成専用枝にLED補光を施すことで、バラ切り花の収穫時期が早まるとともに収穫本数も増加することが認められました。

2 ほ場検討

- ・炭酸ガス施用装置やLEDの設置の様子を見ながら、試験区の生育状況について、意見交換を行いました。

3 総合討議

- ・専技を座長に意見交換を行いました。炭酸ガス施用を取り入れている生産者からは、芽拭きが良くなる、規格の大きい切り花の収穫本数が増える、収穫時期が早まる等の情報提供があり、効果を再確認できて良かったとの声が上がりました。また、炭酸ガス施用をやってみたい、どのくらいの経費がかかるのか等、炭酸ガス施用技術に興味を示す生産者もでてきました。

今回の現地検討会では、炭酸ガス施用を新たに取り入れたいとする声や肥培管理・仕立て方法も試験して欲しい等の要望も寄せられました。今後も園芸研究所では、関係機関と連携を図り、産地や生産者の期待に応えられる課題解決と開発技術の普及を目指します。



ほ場検討



室内検討（総合討議）